

高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.09 時どきどき想像

2020年10月31日(土)－12月13日(日) 高松市美術館(香川県)

今注目の現代アート作家(蝸牛あや、井上佐由紀、後藤映則、保井智貴、大西康明)を紹介！

高松市美術館は、2020年10月31日(土)から12月13日(日)まで、「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.09 時どきどき想像」を開催します。

「高松コンテンポラリーアート・アニュアル」は、独創性、将来性のある優れた作家を発掘、紹介する現代アートのグループ展として2009年から開催しています。10回目という節目を迎える2020年では「時どきどき想像」をテーマとします。

「時」とは何でしょうか。見ることも触ることもできませんが、人間は有史以前から、例えば太陽や月の動きにより、時の存在を認識してきました。この場合、時は過去から現在、そして未来に向かって不可逆的に進んでいるように思えます。その一方で、記憶を辿ったり将来を思い描いたり、私たちは意識の中で時を自由に行き来しており、不可視のものを「想像」する力を持っています。

本展では、5人の作家(蝸牛あや、井上佐由紀、後藤映則、保井智貴、大西康明)による芸術表現を通して、さまざまな「時」を「想像」します。

ただ物事の情報を追うのではなく、その向こう側に在る目に見えないものまで思いを巡らせる。そのような行為から離れがちな今日だからこそ、「時」にまつわる多様な表現やアプローチを通して想像を膨らませ、様々な感覚を揺さぶることのできる機会となれば幸いです。

出展アーティスト 蝸牛あや、井上佐由紀、後藤映則、保井智貴、大西康明



① 保井智貴《sign》photo: Kohei Yamamoto ©Courtesy of MA2gallery

プレスリリース お問合せ

高松市美術館 Tel:087-823-1730 Fax:087-851-7250

広報担当:尾形(eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp) 福田(a160159@city.takamatsu.lg.jp)

■ 展覧会概要

展覧会名：「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.09 時どきどき想像」

主催：高松市美術館

企画：尾形絵里子(高松市美術館学芸員)

会期：2020年10月31日(土)～12月13日(日)

会場：高松市美術館(香川県高松市紺屋町10-4)

休館日：月曜日(11月23日(月)開館／11月24日(火)休館)

開館時間：9:30～17:00(金曜日・土曜日は19:00閉館／入室は閉館30分前まで)

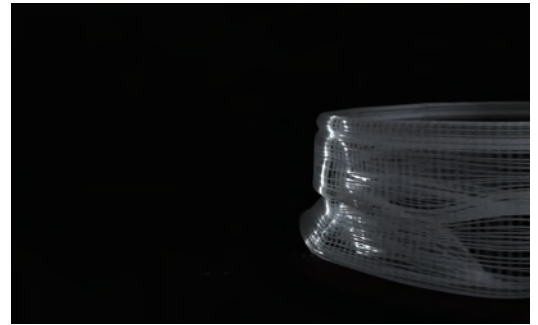
観覧料：一般800円(640円)、大学生500円(400円)、高校生以下無料()は前売及び20名以上の団体料金

*前売チケットは高松市美術館1階受付、高松市役所生協、ゆめタウン高松サービスカウンター、宮脇書店本店及び南本店にて10月30日(金)まで販売

一般のお問い合わせ：Tel：087-823-1711 ウェブサイト：www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/

■ プレス画像

ご希望の方は、下記の「プレスリリースお問い合わせ」に記載している電話番号、メールアドレスにお知らせください。



③ 井上佐由紀
《私は初めてみた光を覚えていない》
東京都写真美術館蔵

④ 後藤映則《WALK #01》

② 蝸牛あや《王国》
Courtesy of MEGUMI OGITA GALLERY



⑤ 保井智貴《sign》 photo: Kohei Yamamoto
©Courtesy of MA2gallery

⑥ 大西康明《体積の裏側 RG》
photo: Seiji Toyonaga Courtesy of ARTCOURT Gallery

プレスリリース お問い合わせ

高松市美術館 Tel:087-823-1730 Fax:087-851-7250

広報担当：尾形(eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp) 福田(a160159@city.takamatsu.lg.jp)

■ 展覧会のみどころ

■ **いま注目の5名のアーティストたち。その近作や新作を高松で初展示。**

国内外で個展、グループ展、芸術祭等に積極的に参加してきた5名のアーティストによる近作や新作を展示します。5名とも高松で紹介されるのは初めてです。会期中はトークやワークショップなど関連イベントを予定。

■ **親しみのある素材や技法をつかった具象的な作品。**

■ **しかし、表現したいものは「目には見えないもの」。**

「時を想像する」をテーマに、刺繍や写真、木彫、ポリエチレンシートを使ったインスタレーションなど、日常生活のなかで目にしたことのある素材や技法を用いた作品が展開します。具象的なものが多いですが、表現しようとしている内容は、「畏れ」や「記憶」等どれも不可視なものばかり。身の周りや社会の「目には見えないもの」について深く考え、想いを巡らせる機会となるような展覧会です。

■ 仏生山町(香川県高松市)にあるアートスポットと連携企画

香川にゆかりのある出品作家・保井智貴が会期中に、仏生山町近辺にあるアトリエ「彫刻家の家」とギャラリー「TOYTOYTOY*」で作品を展開します。高松市中心街にある高松市美術館と歴史ある町並みが今もなお残る仏生山町を巡ることでアートも高松も十分に楽しめること間違いなし。関連イベントとしてワークショップも予定。

*主催：TOYTOYTOY

■ 現代アート初心者にもおススメ、音声ガイド

「ただ観るだけでは理解しにくい」という声にお応え！鑑賞のお供として音声ガイドを特設ウェブサイト(プレスリリース7頁参照)にて配信します。スマートフォンとイヤホンがあれば、どなたでもご利用できます。



⑦ 蝸牛あや《讃歌》Courtesy of MEGUMI OGITA GALLERY

プレスリリース お問合せ

高松市美術館 Tel:087-823-1730 Fax:087-851-7250

広報担当：尾形(eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp) 福田(a160159@city.takamatsu.lg.jp)

■ 出品作家プロフィール

蝸牛あや(かぎゅう・あや)

貝殻や石といった自然の創り出した形や色、模様、太古の物語を紐解き絹糸で刺繍。

1978年兵庫県生まれ。2001年多摩美術大学彫刻科卒業。主な個展に、19年「積み重なった物語」(MEGUMI OGITA GALLERY、東京)、16年「歌」(MEGUMI OGITA GALLERY、東京)、25年「光の石、雨、花」(MEGUMI OGITA GALLERY、東京)など。主なグループ展に、14年「現代の肖像」(銀座三越ギャラリー)、11年「アートフェアULTRA004」(スパイラルガーデン青山、東京)など。「祈り」の手段として長い歴史をもつ刺繍に感銘を受け、様々な地域の技法を学ぶ。現代において形式化した祈りを、一針一針思いを込めた作品を通してその本質へ導く。



⑧ 蝸牛あや《女》Courtesy of MEGUMI OGITA GALLERY

井上佐由紀(いのうえ・さゆき)

万物に必ず訪れる“終わり”を想像させる、波「意思のない生物」や間欠泉「くりかえし」、新生児の瞳「私は初めてみた光を覚えていない」。

1974年福岡県生まれ。1997年九州産業大学芸術学部写真学科卒業。主な個展に、18年「私は初めてみた光を覚えていない」(nap gallery、東京)、13年「くりかえし」(nap gallery、東京)など。主なグループ展に、2019年「至近距離の宇宙日本の新進作家vol.16」(東京都写真美術館)など。2013年「ONWARD Compé'13 International Photography Competition」ファイナリスト。サンフランシスコ近代美術館やフランス国立図書館に作品が所蔵。波や間欠泉、新生児の初めて目を開いた瞬間など、「恐れ、畏れ、怖れ」をテーマとした写真作品を発表する。



⑨ 井上佐由紀《くりかえし》

後藤映則(ごとう・あきのり)

旧石器時代の洞窟壁画や19世紀の映像装置を源泉に、3Dプリンティングを用いて、時を彫刻化。

1984年、岐阜県生まれ。2006年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。主なグループ展に、19年「オープン・スペース2019別の見方で」(ICC、東京)、17-18年「THEドラえもん展」(六本木ヒルズ、東京など)、11年「中之条ビエンナーレ」(群馬県)など。18年「プリ・アルスエレクトロニカ栄誉賞」など受賞。National Science and Media Museum(ブラッドフォード、イギリス)やPhaeno Science Center(ヴォルフスブルク、ドイツ)に作品が所蔵。先端のデジタルテクノロジーと古くから存在するメディア・手法を組み合わせる作品を制作する。



⑩ 後藤映則《NUMBER #01》

プレスリリース お問合せ

高松市美術館 Tel:087-823-1730 Fax:087-851-7250

広報担当:尾形(eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp) 福田(a160159@city.takamatsu.lg.jp)

■ 出品作家プロフィール

保井智貴(やすい・ともたか)

人や社会がもつ記憶や、それらが影響しあう様を考えさせる木彫の人物像。

1974年、ベルギー、アントワープ生まれ。2001年東京藝術大学大学院美術研究家彫刻専攻修了。主な個展に、2019年「Misty」(void+、東京)、2014年「佇む空気/silence」(箱根彫刻の森美術館、神奈川)など。主なグループ展に、「不在的時間/Timeless」(AKIGallery、台北)、「Wabi Sabi SHima」(Thalie Art Foundation、ブリュッセル、ベルギー)など。05年「第34回中原悌二郎賞優秀賞」など受賞。中原悌次郎記念旭川市彫刻美術館などに作品が所蔵。乾漆や漆、螺鈿の伝統技法や3Dデジタル技術を用いて、主に人物像を制作。東京に加え、仏生山町(香川県高松市)近辺にアトリエを構え作家活動を行う。



⑪ 保井智貴《Misty》 photo: Kohei Yamamoto

大西康明(おおにし・やすあき)

接着剤やポリエチレンシートなどの素材を用いて空洞や余白を視覚化し、“現在”を構成する空間の裏側を示唆する。

1979年、大阪府生まれ。2004年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。主な個展に、19年「Permeating Landscape」(Bellagio Gallery of Fine Art、ラスベガス、アメリカ)、11年「体積の裏側」(愛知県美術館)など。主なグループ展に、20年「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE」(岐阜県美術館)、14年「THE MOON - From Inner Worlds to Outer Space」(レイジアナ近代美術館、デンマーク)など。07年「第10回岡本太郎現代芸術賞展太郎賞」など受賞。形に留めにくい素材を用いて、体積や垂直をテーマに空洞や余白を視覚化する。



⑫ 大西康明《日々の距離》

プレスリリース お問い合わせ

高松市美術館 Tel:087-823-1730 Fax:087-851-7250

広報担当:尾形(eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp) 福田(a160159@city.takamatsu.lg.jp)

■ 関連イベント

アーティスト・トーク

出品作家が自身の作品や制作について、トーク、ディスカッションします。

2020年10月31日(土)14:00～16:00(13:30開場)

出演：全出品作家 会場：1階講堂

聴講料：無料 定員：先着30名(要申込)

申込：電話(087-823-1711)にて受付
2020年10月13日(火)8:30～

ギャラリートーク(展示解説)

学芸員：2020年11月1日(日)14:00～

ボランティアcivi：会期中の日曜日(ただし、11月1日除く)

各日14:00～

会場：2階展示室

聴講料：無料(ただし、観覧券は必要です)

※内容を変更する場合があります。

ワークショップ「自然の中で見つけたものをよく見て、鉛筆で描いてみよう」

自然のモチーフをデッサンし、ものをよく見て想像を広げる楽しさを体験します。

2020年11月1日(日)9:30～12:00

講師：蝸牛あや 会場：3階講座室 受講料：500円

持ち物：石や貝、羽根など、きれいだな、面白いと思う自然なもの。

定員：先着8名(要申込) 対象：小学3年生以上

申込：電話(087-823-1711)にて受付 2020年10月6日(火)8:30～



⑬ 蝸牛あや《樹》Courtesy of MEGUMI OGITA GALLERY

ワークショップ「時間のかたち」

後藤映則さんの作品は、光を利用して、動いていないものが生きているかのように見える不思議な作品です。その制作方法からヒントをもらって、制作にチャレンジします！

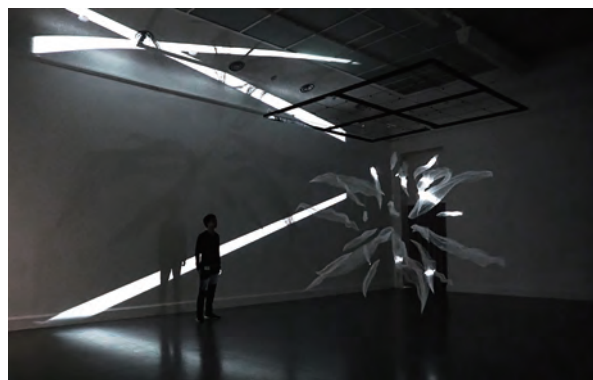
2020年11月14日(土)14:00～16:30

講師：後藤映則 会場：1階講堂

受講料：500円 定員：先着8名(要申込)

対象：小学3年生以上

申込：電話(087-823-1711)にて受付
2020年10月6日(火)8:30～



⑭ 後藤映則《ENERGY #01》展示風景

ミニコンサート「刻まれる時の中で変容する空間」

ピアノ・フェイズ(S.ライヒ)、前奏曲 口短調(J.S.バッハ=A.ジロティ)、空に書かれたもの(M.リヒター)、他
※内容を変更する場合があります。

2020年11月28日(土)13:30～14:00(13:00開場)

演奏：波多翼(ピアノ)

会場：1階講堂

聴講料：無料

定員：先着30名(要申込)

申込：電話(087-823-1711)にて受付 2020年11月3日(火)8:30～

プレスリリース お問い合わせ

高松市美術館 Tel:087-823-1730 Fax:087-851-7250

広報担当：尾形(eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp) 福田(a160159@city.takamatsu.lg.jp)

■ 連携企画「まちにある家という彫刻」

町全体が「展示空間」、そこにある建物や自然が「彫刻」だとしたら。高松市仏生山町近辺にある、保井智貴のオルタナティブスペース「彫刻家の家」を背景に、町の移り変わりを感ずるプロジェクトを開催します。

特別展示

高松市仏生山町近辺にある二会場で保井智貴の作品を鑑賞できます。

会期中(2020年10月31日～12月13日)の土曜日(ただし、10月31日を除く)

11月3日(火・祝)・20日(金)・22日(日)、12月11日(金)・13日(日)

各日 13:00～17:00

・「彫刻家の家」

会場：公式ホームページをご覧ください。URL: <http://ienoie.info>

観覧料：無料

主催：高松市美術館

・「TOYTOYTOY」

会場：高松市仏生山町455-2

観覧料：無料

申込：メール(info@toytoytoy.jp)にて受付 2020年10月1日(木)～

主催：TOYTOYTOY

※TOYTOYTOYの展示内容等に関するお問い合わせ：メール(info@toytoytoy.jp)



© 保井智貴《まちにある家という彫刻》
photo: Kohei Yamamoto

ワークショップ

「彫刻家の家」を背景に、時とともに少しずつ変わっていく「彫刻」を写真に撮り、町の移り変わりを感ずよう！最後にみんなで集めた「彫刻」を編集し、上映会をします。

2020年11月21日(土) 10:00～14:00 (昼食休憩1時間)

講師：保井智貴 会場：高松市仏生山町近辺(集合：コトデン仏生山駅) 受講料：500円(昼食代別途)

持参物：カメラ(スマートフォン、デジタルカメラなどパソコンにデータ送付できるもの)

申込：電話(087-823-1711)にて申込 2020年11月3日(火) 8:30～

主催：高松市美術館

■ その他

特設ウェブサイト

9月7日(月)より、「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.09」特設ウェブサイトを公開。

最新情報や展覧会の紹介動画、音声ガイドなどを順次公開します。

URL：<https://annual09.takamatsu-art-museum.jp/>

または、高松市美術館公式ホームページの「展覧会/イベント」ページからアクセスできます。

高松市美術館 SNS



YouTube

展覧会情報、ワークショップなどの関連イベント、美術館の裏側など、高松市美術館情報を配信しています。

プレスリリース お問い合わせ

高松市美術館 Tel:087-823-1730 Fax:087-851-7250

広報担当：尾形(eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp) 福田(a160159@city.takamatsu.lg.jp)